

2月



## あの日のあの川 リレー日記 ～第72話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第72話主人公 岸本季紗

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：東京都隅田川)

### 「目新しい、絵の中の風景」

いつのこと？：小学生

どこの川？：秋川(東京都)

三浦さんからバトンを受け取りました。白川研究室の岸本と申します。今回は出身地を流れる隅田川ではなく、小学生の頃に家族と秋川渓谷に訪れた時のことをお話させていただきます。

私にバトンを渡してくれた三浦君と被ってしまったのですが、この後お話しするエピソードの場所を覚えておらず、親に聞いてみたところ秋川でのエピソードで、被っていたという経緯なので偶然ということで許していただければと思います。秋川については第71話にて三浦さんが紹介してくださっているので割愛させていただきます。

私の実家の近くには隅田川が流れているのですが、水域と陸域はコンクリートで分断されており、川のすぐ真上には首都高速が通っているようなところでしたので、河原で遊んだようなこともありませんでした。

そんな私にとって、秋川渓谷はとても面白い場所でした。様々な大きさの石にあふれている河原は小学生の私にとっては歩きにくひやひやしていたのを覚えています。そして、川の両岸に広がる緑の風景は私の記憶に目新しく、写真や絵でしか見たことのない風景が目の前に広がっていると圧倒されたことも覚えています。とにかく都会のビルで囲まれた場所に住んでいた私にとっては秋川渓谷でのすべてが新しく、印象に残るものでした。

秋川渓谷にはマス釣りのために訪れたのですが、あまり釣れなかったのか、マス釣りを楽しんだ記憶があまり残っていません。ただ一つ覚えているのは、ようやく魚がかかった釣り竿を河原にあげたのは良かったのですが、釣り針を誰も外すことが出来ず、その特別の場所に行っていた父親を待っていたということです。その時の私にとっては生きている魚をつかんで釣り針を外すことがとても怖かったのだと思います。

そして今も、釣り針を外すことが出来るかと言われると出来ないと思っています。そんな私ですがこの『川と人』ゼミに入って川との接点を持っていることもありますし、久しぶりに秋川、秋川渓谷を訪れてみたいと思っています。身長もだいぶ伸びた今、その場の印象は少し異なるものになっているのかもしれないと思いますし、家族とはまた異なる関係の友達と訪れることでまた異なる思い出を作ることが出来るのではないかとと思っています。

(次は安仁屋稜さんにバトンを託します)